災害に備え、協定を締結

ながさき西海農業協同組合（松田辰郎代表理事組合長）と市は３月17日、災害が発生した際に、救援物資を被災地に速やかに輸送するため、救援物資の荷捌きおよび輸送等に関する協定を結びました。この協定は、災害が発生した際に全国各地から救援物資が搬入されることを想定し、物資の荷捌きや輸送に備えるため締結されました。

協定を交わした松田代表理事は「災害時は当組合施設や車を活用して、地域のために全面的な協力をしたいと考えている」と述べました。

また、３月24日には日本下水道事業団、（公社）日本下水道管路管理業協会、（一財）漁港漁場漁村総合研究所と下水道災害支援協定を締結しました。

この協定は、地震や津波、浸水などで被災した下水道施設の迅速な機能回復を図るため、調査、修繕などの復旧支援を受けることを目的としています。

協定書に調印した（一財）漁港漁場漁村総合研究所の髙吉晋吾理事長は「お役に立てるように、できる限りの対応をさせていただきます」と抱負を述べました。

▲（上）３月17日の調印式
（下）３月24日の調印式

「お金」を学ぶ絵本を寄贈

松浦商工会議所青年部（松浦誠会長）は４月９日、お金に関する絵本「おかねってなあに？」35冊を市へ寄贈しました。

この本は、日本商工会議所青年部が製作したもので、商工会議所の前身である組織を作った渋沢栄一が登場し、お金の持つ役割やお金に関する知識を絵本でわかりやすく教えてくれる内容となっています。

松浦会長は「明治時代から利益だけでなく公益についても考えていた渋沢栄一の想いを、子どもたちにも学んでほしい」と話しました。

寄贈された絵本は、市内の各小学校、図書館等で活用します。

市内を清掃 ロータリークラブ

松浦ロータリークラブ（山本勝治会長）は３月24日、市民が利用する市内施設の清掃活動を行いました。

この日は、同クラブの会員22人が集まり、文化会館イベント広場のなぎなたモニュメント、道の駅「松浦海のふるさと館」、郵便局前記念碑の３か所で清掃活動を行いました。

活動に参加した山本会長は「新型コロナウイルス感染症の影響から２ヶ月間休会していました。奉仕を目的にこれだけの人数が集まることができてよかった」と話しました。

なぎなたモニュメント▶
清掃の様子

旧国鉄調川駅長を追悼

旧国鉄松浦線の調川駅長であった故丸山七郎さんの慰霊祭が４月６日、同駅近くにある称頌碑（しょうしょうひ）前で執り行われました。

昭和18年に、調川駅で起きた貨物列車の脱線事故の復旧作業をしていた丸山さんは、夜中も明かりを灯して作業を完遂。軍の灯火管制に背いた責任から、自ら出発合図を出した機関車に飛び込み亡くなったと伝えられています。

この日は　丸山さんの家族や松浦鉄道関係者など12人が参列し、故丸山駅長を追悼しました。

戦没者慰霊祭

春の戦没者慰霊祭が市内各地で執り行われました。

青島地区では青島地区戦没者慰霊祭が４月４日、殖国の碑前で行われ、約20人が参列し、21人の戦没者へ追悼の意を捧げました。

松浦市連合遺族会の八谷健司会長は、「後世に戦争の悲惨さ平和の尊さを語り継ぐことは私たちの使命です。戦禍に倒れたご英霊のもと、今日の平和が築かれていることを忘れてはいけません」と慰霊の言葉を述べました。

松浦市消防署救助隊潜水班が始動

▲（上）決意表明を行った田中班長
（下）水中での救助訓練の様子

松浦市消防本部は４月14日、水難救助潜水業務の開始式を執り行いました。

これまで水中からの救出では、潜水資格者がいないことや潜水資器材の装備が無いことが課題となっていました。

同消防本部では、平成29度から潜水士免許や小型船舶免許の取得、潜水資器材の購入を行い潜水訓練を実施するなど整備を進め、今年４月１日に救助隊潜水班を設置。潜水員として16人が配属されました。

開始式では、潜水訓練の様子が映像で披露され、水難救助用の資器材や潜水班の装備について説明が行われました。潜水班代表として田中将広班長が「市民の安心安全の負託に応えられるよう、日々訓練に励みたい。」と決意表明を行いました。

水難事故の際には、これまでと同様に海上保安庁や警察など漁業関係者と連携を取りながら、水難救助現場において対応できる環境を整えていく予定です。